

日曹 **コテツ**® フロアブル (KOTETSU FL)

登録番号 第19186号
種類名 クロルフェナピル水和剤
chlorfenapyr
性状 類白色水和性粘稠懸濁液体
有効年限 5年

有効成分 クロルフェナピル 10.0%

毒性 医薬用外劇物

包装 (100mℓ×10本)×6箱、(250mℓ×20本)×2箱、500mℓ×20本

■特長

1. 殺虫スペクトルが広く、チョウ目・アザミウマ目・半翅目・ダニ目の各種害虫に効果があり、多くの作物に適用できます。
2. 難防除害虫であるコナガ・ヨトウムシ類・ミナミキイロアザミウマ・ミカンキイロアザミウマ・ハダニ類などに高い効果があります。
3. ユニークな構造（ピロール系）を有し、既存の殺虫剤に感受性が低下した害虫にも有効です。
4. 害虫のいずれの加害ステージにも効果があります。
5. ハダニの天敵であるカブリダニに対する影響が少ないです。

■適用害虫名及び使用方法

(2018年10月24日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法
キャベツ	コナガ、アオムシ タマナギンウワバ ヨトウムシ オオタバコガ ハイマダラノメイガ シロイチモジヨトウ	2,000	100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散布
	メキャベツ 非結球メキャベツ			ハスモンヨトウ		
はくさい	ヨトウムシ カブラハバチ	収穫前日まで				
だいこん	コナガ、アオムシ ダイコンサルハムシ	収穫14日前まで				
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコナダニ	4,000～6,000	2葉期まで ただし、 収穫14日前まで	1回	散布	
非結球あぶらな 科葉菜類 (こまつな、ひろ しまな、チンゲン サイ、さんとうさ いを除く)	コナガ	2,000	収穫14日前まで			
チンゲンサイ さんとうさい			収穫7日前まで			
こまつな			ハクサイダニ アオムシ	収穫3日前まで		
ひろしまな	コナガ		2回以内			
かぶ	ナモグリバエ ヨトウムシ コナガ	収穫前日まで				

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法																
茎ブロッコリー	アオムシ	2,000	100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散 布																
ブロッコリー	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ																					
カリフラワー	コナガ																					
なばな	ハスモンヨトウ																					
あしたば	ウドノメイガ																					
モロヘイヤ	アザミウマ類																					
レタス	オオタバコガ ナモグリバエ ハスモンヨトウ ヨトウムシ																					
ねぎ	シロイチモジヨトウ ヒョウタンゾウムシ類																					
トマト ミニトマト	オオタバコガ、ナミハダニ ミカンキイロアザミウマ トマトサビダニ																					
なす	ヨトウムシ ハスモンヨトウ チャノホコリダニ テントウムシダマシ類																					
ピーマン とうがらし類 (ししとうを除く)	オオタバコガ ミカンキイロアザミウマ ミナミキイロアザミウマ ハダニ類	4,000	100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散 布																
ししとう	ヒラズハナアザミウマ																					
すいか	ミナミキイロアザミウマ ハダニ類、ウリノメイガ オオタバコガ	2,000					100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散 布												
うり類 (漬物用)	ミナミキイロアザミウマ ハダニ類																					
きゅうり	ミカンキイロアザミウマ ウリノメイガ、ウリハムシ	2,000									100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散 布								
にがうり かぼちゃ (日本かぼちゃ)	ミナミキイロアザミウマ																					
オクラ	オオタバコガ ハスモンヨトウ	2,000													100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散 布				
いちご	ハダニ類 シクラメンホコリダニ ミカンキイロアザミウマ																					
すいぜんじな	ヨトウムシ、ハダニ類	2,000																	100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散 布
ふき	ハスモンヨトウ ハダニ類																					
つわぶき とうき	ハダニ類	2,000	100～ 300	収穫7日前まで	2回以内	散 布																
ふき (ふきのとう)	ハスモンヨトウ ハダニ類																					
つわぶき とうき	ハダニ類	2,000		100～ 300			収穫90日前まで	2回以内	散 布													
つわぶき とうき	ハダニ類																					
つわぶき とうき	ハダニ類	2,000					100～ 300			収穫14日前まで	2回以内	散 布										
つわぶき とうき	ハダニ類																					

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法	
みしまさいこ	ハスモンヨトウ	2,000	100～ 300	収穫21日前まで	2回以内	散 布	
アスパラガス	オオタバコガ ハスモンヨトウ ハダニ類、ヨトウムシ ジュウシホシクビナガハムシ		100～ 500	収穫前日まで			
とうもろこし ヤングコーン	ハダニ類 オオタバコガ						
豆類(未成熟) (ただし、さやいんげん、 さやえんどう、実えん どうを除く)	ハダニ類						
さやいんげん	アズキノメイガ						
さやえんどう 実えんどう	ハスモンヨトウ						
あ ず き	ハダニ類						
	ノメイガ類		収穫3日前まで				
せんきゅう	ハダニ類		収穫前日まで				
しょうが	ハスモンヨトウ		※2				
みょうが (花 穂)	ハダニ類		※1				
みょうが (茎 葉)							
てんさい	ヨトウムシ、ハダニ類 カメノコハムシ		100～ 300				収穫7日前まで
さといも	カンザワハダニ ハスモンヨトウ						収穫3日前まで
さといも (葉 柄)		収穫前日まで					
はすいも (葉 柄)		収穫3日前まで					
やまのいも やまのいも (むかご)	カンザワハダニ ナガイモコガ	収穫前日まで					
かんしょ	ハスモンヨトウ ハダニ類	収穫前日まで					
	ヨツモンカメノコハムシ	2,000～4,000					
しゅんぎく		収穫14日前まで					
みつば	ハスモンヨトウ	2,000	収穫14日前まで ただし、 伏せ込み栽培は 伏せ込み前まで	1 回			
よもぎ	ミナミキイロアザミウマ	収穫3日前まで					
セルリー	ヨトウムシ	収穫14日前まで					
にんじん	ヨトウムシ、キアゲハ ヒョウタンゾウムシ類	収穫前日まで	2回以内				

※1 みょうが(花穂)の使用方法/散布、ただし花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する

※2 みょうが(茎葉)の使用時期/みょうが(花穂)の収穫前日まで ただし、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで


作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法	
食用プリムラ	ハスモンヨトウ	2,000	100～ 300	収穫14日前まで	2回以内	散 布	
食用金魚草 食用なでしこ 食用エキザカム 食用せんにちこう 食用トレニア 食用パンジー	ミカンキイロアザミウマ ヨトウムシ類 ハダニ類						
食用ミニバラ				収穫3日前まで			
葉にんにく	ハダニ類			収穫14日前まで	1回		
葉ごぼう	ハスモンヨトウ			収穫14日前まで	3回以内		
やなぎたで コリアンダー (葉)				収穫7日前まで	2回以内		
エンサイ				収穫3日前まで			
つるむらさき				収穫7日前まで	1回		
たらのき				収穫90日前まで	2回以内		
はまぼうふう (葉)	ハダニ類			親株養成期 ただし、 収穫90日前まで	3回以内		
うど	シクラメンホコリダニ			根株養成期 ただし、 収穫75日前まで	2回以内		
食用ぎく	ミカンキイロアザミウマ			収穫3日前まで			
きく(葉)	ミナミキイロアザミウマ ヨトウムシ類 ハダニ類			収穫7日前まで			
きく	オオタバコガ アワダチソウグンバイ			150～ 300	発生初期		2回以内
花き類・ 観葉植物 (きく、ストック を除く)	ヨトウムシ類 ハダニ類 ミカンキイロアザミウマ						
ストック	コナガ、アオムシ						
しきみ	クスアナアキゾウムシ	200～ 700					
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ カンザワハダニ チャノナガサビダニ チャノホコリダニ シャクトリムシ類 チャノコカクモンハマキ マダラカサハラハムシ チャトゲコナジラミ	200～ 400	摘採7日前まで				
りんご	キンモンホソガ ナミハダニ ハマキムシ類 ミノガ類	2,000～4,000	200～ 700	収穫前日まで			
	ヨモギエダシャク リンゴサビダニ						

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法
ブルーベリー	イラガ類	2,000	200 ~ 700	収穫前日まで	3 回以内	散 布
小粒核果類	オウトウハダニ ウメシロカイガラムシ					
も も	ミカンキイロアザミウマ	2,000 ~ 4,000				
	ウメシロカイガラムシ	2,000				
ネクタリン	モモハモグリガ カンザワハダニ ナミハダニ モモサビダニ			2,000 ~ 4,000		
	ミカンキイロアザミウマ	収穫7日前まで				
	カンザワハダニ ナミハダニ チャノキイロアザミウマ オウトウショウジョウバエ		2,000			
ぶ ど う	ミカンキイロアザミウマ チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ ブドウサビダニ	2,000 ~ 4,000		200 ~ 700	収穫60日前まで	2 回以内
	カンザワハダニ ナミハダニ、ミノガ類 ハスモンヨトウ トビイロトラガ モンキクロノメイガ コガネムシ類	2,000				
ぶ ど う 〔温室・ガラス 室等、密閉 できる場所〕	チャノキイロアザミウマ	150mℓ /10a	6	収穫14日前まで	常温煙霧	
いちじく	ヒラズハナアザミウマ カンザワハダニ	2,000	200 ~ 700	収穫前日まで	3 回以内	散 布
キウイフルーツ	キウイヒメヨコバイ	2,000 ~ 4,000		収穫14日前まで		
か き	チャノキイロアザミウマ カキノヘタムシガ					
	カキサビダニ					
	カキクダアザミウマ イラガ類	2,000				
な し	カンザワハダニ ナミハダニ	2,000 ~ 3,000		200 ~ 700		
	ニセナシサビダニ					
かんきつ	ヨモギエダシャク チャノキイロアザミウマ	2,000	200 ~ 700	収穫前日まで	2 回以内	
	ヨモギエダシャク	2,000 ~ 4,000				
	アザミウマ類 (ネギアザミウマを除く)	2,000 ~ 6,000				
	ミカンサビダニ チャノホコリダニ	4,000 ~ 6,000				
	ハスモンヨトウ リュウキュウミカンサビダニ カネタタキ スグリゾウムシ	4,000				

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法
みかん (温室・ガラス 室等、密閉 できる場所)	ミカンキイロアザミウマ	300mℓ /10a	10	収穫前日まで	2回以内	常温煙霧
さんしょう (果実)	チャノキイロアザミウマ	4,000	200～ 700	収穫7日前まで		散布
マンゴー	チャノキイロアザミウマ	2,000		収穫14日前まで		
ゴレンシ	カンザワハダニ					

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用の際は容器をよく振って均一な状態にしてから所定量を取り出してください。
2. ハウス等の常温煙霧に使用する場合は、次のことに注意してください。
 - (1) 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
 - (2) できるだけ日中の煙霧はさけ、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態としてください。
3. ボルドー液と混用する場合は凝集することがあるので、本剤を調製した後にボルドー液と混合してください。
4. ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないように、ていねいに散布してください。
5. 散布量は対象作物の生育段階・栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
6. 植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないように葉の表裏に十分に散布してください。
7. きゅうり、なす、はくさい、だいこん、非結球あぶらな科葉菜類、なばな及びセルリーの幼苗期に使用すると薬害を生じることがあるので注意してください。
8. ピーマン、とうがらし類に使用する場合は、品種により葉に褐点などの薬害を生じることがあるので予備散布により薬害のでないことを確認してから散布してください。
9. かき(刀根早生など)の着色期の散布は、薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
10. すいかに使用する場合は、葉に薬害を生じることがありますが、その後の生育に対する影響は認められていません。
11. にがうりの幼苗期は薬害を生じるので、定植前には使用しないでください。定植後のにがうりに使用する場合は、葉に灰褐色などの斑点の薬害を生じることがありますので、予備散布により薬害の出ないことを確認してから散布してください。
12. 西洋かぼちゃ(黒皮栗、青皮栗、えびす、雪化粧、みやこ、黒皮甘栗、栗味、栗マロン、芳香等)には薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
13. ほうれんそうに使用する場合は、葉に白化などの薬害を生じるおそれがあるので、必ず使用時期を守って使用してください。
14. ばら、食用ミニバラにはじめて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
15. カーネーションへの散布は、薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
16. シクラメンに使用する場合は、新葉に薬害を生じる場合があるので、薬害の出ないことを事前確認してから散布してください。
17. 周辺の作物にかかると薬害を生じる場合があるので、かからないよう十分に注意して散布してください。
18. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
19. ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - (1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
 - (2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
 - (3) 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
20. マルハナバチに影響があるので注意してください。
21. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
22. 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意 

23. 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
24. 散布等の作業の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
25. 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分に換気した後に入室してください。
26. 街路、公園などで使用する場合は、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所に、カギをかけて保管してください。盗難・紛失の際は警察に届け出てください。

-
- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤などで消火に努めてください。
 - 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収してください。
 - 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
 - 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。空ビンは圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
-

●コテツフロアブルの上手な使い方

- ①希釈の際は、原液に粘性があるので、十分攪拌してから使用してください。あらかじめ、少量の水に溶かしてからタンクに入れると分散しやすくなります。
- ②繁殖が早く、密度が高くなりやすい、ハダニ類、アザミウマ類を防除する時は、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布してください。
- ③周辺の作物（特にメロン・ほうれんそう・しそ等）にかかると薬害を生じる場合があるので、薬液がかからないよう十分に注意して散布してください。

キャベツ、はくさい、だいこんの場合

- ④コナガ対象に使用する場合には、基幹防除剤として発生初期に使用してください。
- ⑤コナガは、薬剤抵抗性が発達しやすいので、作用性の異なる他の薬剤と輪番で一作物一回の使用としてください。
- ⑥浸透移行性がないので、結球前に使用し、かけむらのないよう十分量を散布してください。
- ⑦はくさい、だいこんの幼苗期には薬害のおそれがあるので、定植活着後、8葉期以降に使用してください。

なす、きゅうりの場合

- ⑧ハダニ類・アザミウマ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので作用性の異なる他の薬剤と輪番で一作物一回の使用としてください。
- ⑨なす、きゅうりの幼苗期（1～3葉期）には薬害を生じる場合があるので、使用しないでください。

すいかの場合

- ⑩すいかに使用する場合、機能性展着剤の加用は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。

果樹の場合

- ⑪リンゴハダニ・ミカンハダニ・クワオオハダニなど、パノニカス属のハダニには効果がありません。
- ⑫マメコバチに影響があるので、受粉にマメコバチを利用する場合には開花期での使用はさけてください。
- ⑬ぶどうの結実期に使用する場合は、果実が小豆大になるまでに散布してください。（果粉溶脱）